

ここでは、静岡市文化振興計画策定の意義と背景について述べています。

1 策定の趣旨

本市では、平成15年4月の静岡市と清水市の合併を経て、平成16年度に策定した「第1次静岡市総合計画」の基本理念を達成していくための部門別計画の一つとして、これまでの両市の文化振興に向けた取組を踏まえ、平成18年3月に「静岡市文化振興ビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、「個性あるしずおか文化の創造と継承～人が文化を創り、文化が人を育てる都市（まち）を目指して～」という基本理念のもと、「しずおかの風土につちかわれた歴史と文化の伝承」、「地域性豊かな市民文化の創造」、「しずおか文化の発信と交流」を3つの目標に掲げ、これまで様々な角度から文化振興施策を進めてきました。

しかし、平成26年度をもってビジョンの計画期間が終了したことを受け、今後の文化振興の方向性を探るなかで、本市が文化を振興していく上で変わることのない理念等を条例という大きな柱として定め、文化のちからによる都市の発展を目指す姿勢を示そうと、平成28年4月に「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」が制定されました。

条例では、「文化のちからにより国内外から多くの人々を集め、訪れる人、住む人を魅了する求心力の高いまちの実現」を目指すことが掲げられ、そのための指針として文化の振興に関する計画を定めることが条項に盛り込まれました。これを受け、「静岡市文化振興計画」を策定し、総合的かつ持続的な文化の振興を図り魅力あるまちづくりに活かすこととしました。

この計画は平成28年度から令和4年度までの計画期間を経て、間もなくその役目を終えます。この間、条例第20条の規定により、文化の振興に関する市の施策の総合的な推進を図るために設置された静岡市文化振興審議会において、目標の達成度及び効果の検証、及び評価に関することについて審議を重ねてきました。

その中で、ゆとりある健康な心を維持し、生活を豊かにするためには、文化から「誰ひとり取り残さない」状態、即ちソーシャル・インクルージョン^{※1}を達成していく必要があること。また誰もが家や職場・学校などのみならず、文化の力によって第3の居場所（サードプレイス^{※2}）に出会い、その緩やかな繋がりによって豊かな生活を営んでいくことが必要であるとし、新たにこれらを盛り込んだ、第2期 静岡市文化振興計画を策定することとしました。

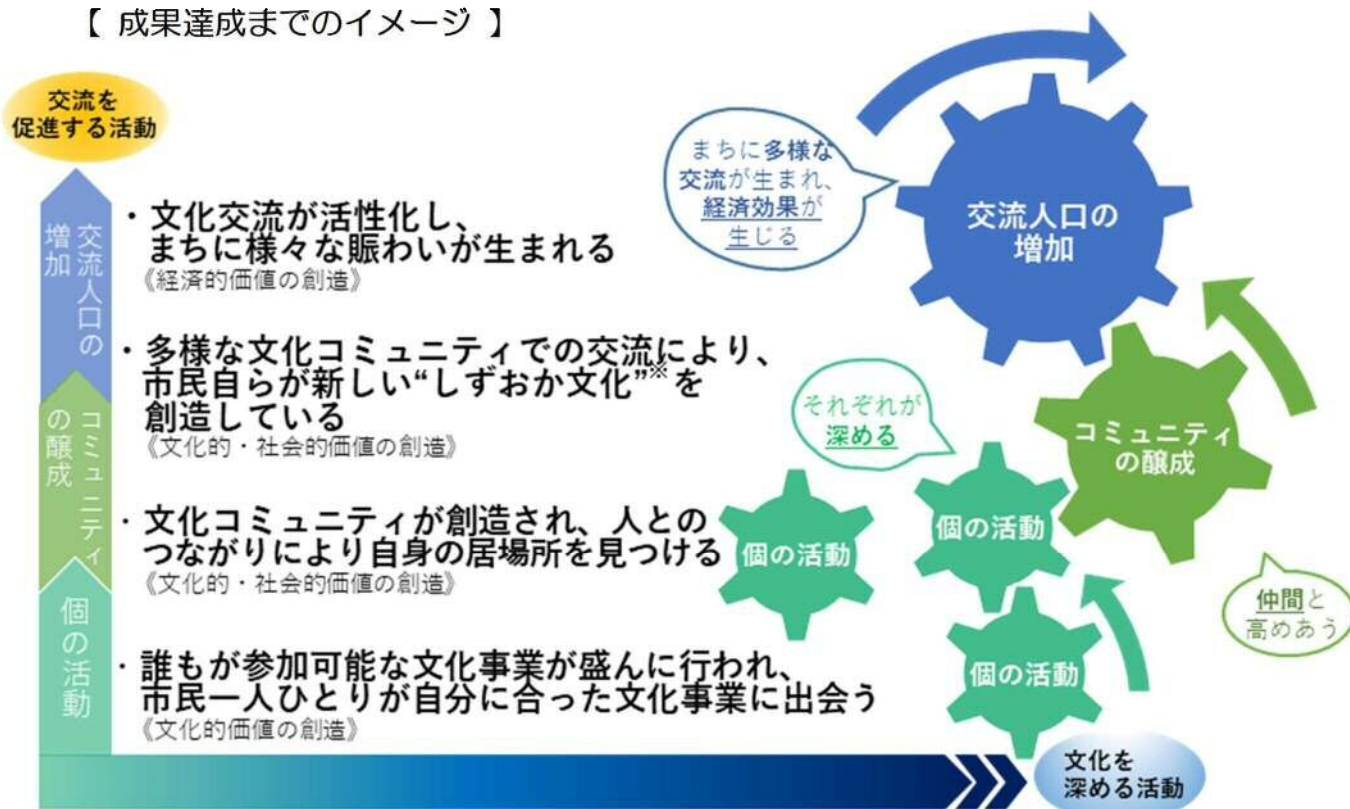
※1 ソーシャル・インクルージョンとは…全ての人々を孤独や排除から擁護し、健康で文化的な生活を実現できるよう、社会の一員として支えていこうとする理念のこと。

※2 サードプレイスとは…自宅や職場・学校などに次ぐ第3の居場所のこと。コミュニティの核であると同時に、個人が豊かに暮らすために不可欠な集いの場であり、実空間のみならずインターネットを介するものも含め、心穏やかに過ごせる多様な空間を指す。

6 期待される成果

本計画では、施策や基本目標を通じてあらゆる場所で“誰もが”文化に触れ交流し、居場所に出会い心豊かになること、文化交流により新たな文化を生み出し、まちが活力を得てにぎわっていく事を目指しています。そのためには、交流を促進する活動と、文化を深める活動を共に活かしながら、それぞれを高め合う必要があります。

【 成果達成までのイメージ 】



文化活動に打ち込むアーティストや市民の「個の活動」においては、それぞれがその活動内容を深め、高めていく姿を下支えします。「文化活動を始めてみたい」と考える人が入門的な事業に出会えるよう支援し、プロとして活動する人には活動の場の提供を行うなど、それぞれが伸びやかな文化活動を行える状態にしていく事は本計画の基盤であると考えています。

次に「コミュニティの醸成」です。個の活動が深まっていく中で、同じ活動をする人々と仲間になったり、時にその技術を競い合ったりする場が提供される事を目指します。また、異分野に携わる人との出会いや融合、アーティストなどプロとして活動する人々との交流の機会が得られるよう働きかけ、本市ならではの“しずおか文化”が育っていく環境を整えます。

こうしたコミュニティが市内のあらゆる場で生じ、まちに日常的なにぎわいが生じていくほか、静岡まつりや清水みなと祭り、安倍川花火大会、大道芸ワールドカップ in 静岡といった、季節に応じた多くの人々が集う文化イベントを開催し、文化による人々の交流によってまちのにぎわいによる活力が生まれ、経済効果も生じさせていきます。

3 計画の進捗管理と評価

各施策に位置づける事業について、年度ごとに実施計画の実績を取りまとめ、文化団体を代表する者、学識経験者、事業者を代表する者、公募市民による委員で構成される「静岡市文化振興審議会」に報告を行い、専門的な見地や市民意見を反映し評価を行います。

また、計画期間の中間年次に、計画全体の進捗状況について検証を行い、そこで出された成果、課題、対応策などの意見を踏まえ、必要に応じ計画内容や実施事業の見直し等を行います。

4 計画全体の成果指標

計画の最終的な進捗状況の検証の参考とするため、令和3年度に実施された市民意識調査の結果を参考に、下記の4つの指標を設定し、本市の文化振興施策の推進を図ります。

参考：「静岡市の文化に関する市民意識調査（令和3年度）」

◆文化をはぐくむ人づくり

普段から、文化鑑賞や創作・参加を通じた体験などの活動をしている市民の割合

令和3（2021）年度

82.6%



令和12（2030）年度

85%

◆文化をはぐくむ地域づくり

静岡市は、歴史・伝統文化や地域の魅力が感じられるまちだと思う市民の割合

令和3（2021）年度

58.9%



令和12（2030）年度

70%

◆文化でつながるまちづくり

自分自身は、家族や職場・学校以外で文化による「人とのつながり」を持つ機会があると答えた市民の割合

令和3（2021）年度

54.3%



令和12（2030）年度

65%

◆文化でにぎわうまちづくり

自分自身や周りの人は、祭りやイベントなどの文化事業に参加したり、交流したりする機会があると答えた市民の割合

令和3（2021）年度

43.5%



令和12（2030）年度

55%

本市市内における文化による交流客数の増加

令和3（2021）年度

7,332,000人



令和12（2030）年度

7,558,000人